

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2373700315
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム 尾西蓮池の家
訪問調査日	平成 20 年 11 月 4 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 15 日
評価機関名	福祉総合研究所株式会社

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2373700315
法人名	有限会社 政経
事業所名	グループホーム 尾西蓮池の家
所在地	愛知県一宮市蓮池郷東20-2 (電話)0586-67-3711

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市千種区内山1丁目11番16号		
訪問調査日	平成20年11月4日	評価確定日	平成20年12月15日

【情報提供票より】(20年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 9 月 15 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27人
職員数	26 人	常勤	15 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 9 人

(2)建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	58,000 円	
敷金	有(円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	25 名	男性	9 名	女性	16 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	9 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 77,5 歳	最低	66 歳	最高	90 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	森医院
---------	-----

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム近隣は野菜畑があり四季を感じる事ができるのどかな環境にある平屋建て3ユニットのホームである。職員はホームの理念である「優しく穏やかな介護をめざします」を基に日々のケアサービスに具体化して取り組んでいる。入居時には車椅子が必要な人が職員の手厚い介護により現在は一人で歩行が出来る迄になっている。またベテラン職員が介護の指導をしており実践でスキルアップにつながっている。他に同法人の年3回の研修や外部の研修にも参加して、サービスの質の向上を目指している。地域との関係も良好で散歩などで野菜の作りかたのノウハウを教えてもらう事もある。家族から親切な対応をしてもらっているとの声があり良好な関係が伺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価での改善課題の中に自己評価の着眼点の見直しがあったが今回の自己評価はユニット毎に話し合い検討しており、着眼点もほとんどぶれていない。全職員が評価の意義を理解して取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はユニット毎にミーティングを開き検討している。それをユニットリーダーがまとめ管理者に確認してもらっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は概ね2ヶ月毎に開催している。出席者は市役所職員、地区民生委員、利用者家族代表などである。会議ではホームの現状の報告や要望や意見交換である。前回は終末期のあり方についての意見交換がおこなわれ相互で理解を深めることができた。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者は利用者家族と話す機会は多くちょっとしたことでも職員間で話し合い早急に改善するようにしている。また月1回家族に日常の暮らし振りなどを手紙で送付していることで、様子がわかり、家族から満足しているとの声が多い。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣に散歩時に挨拶から始まり世間話をする様になり地域との馴染みの関係が深くなってきている。地域の中学生や大学生の落語研究会などの交流があり、紙芝居や踊りのボランティア活動も受け入れており、地域との関係も良好である。

2. 評価結果(詳細)

取り組みを期待したい項目

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念は「優しくおだやかに静かな介護をめざします」である。利用者本位に合う理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はユニットごとに見やすい所に掲示している。職員は理念を月1回の会議などで時折触れており、ケアサービスに具体化して日々取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には加入しており、回覧板が回ってくることで、地域行事がわかり易い、夏祭り等の時には協力している。散歩時に近隣の人と野菜作りについて等会話がはずむ時もあり交流はできている。また地域の中学校や大学生の落語研究会などと交流はしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価はユニットごとに話し合いリーダーがまとめ管理者が確認している。話し合いにより車椅子から安全ベルトをはずした人がいる。前回の外部評価の改善の中での食事作りでは全食手作りとなり、利用者が食が進み健康になっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は概ね2ヶ月毎の開催である。8月は市役所福祉課職員とホーム職員とで、利用者の看取りについて意見交換を行い相互で理解を深めることができた。	○	運営推進会議の参加メンバーの工夫をしてホームの改善点や要望がもらえることを期待する。また会議開催後は議事録を残したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	職員は市役所が開催する研修や講演会に参加している。今回は福祉課にホームの利用者の看取りに関する事で相談する事がよくあった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は週1～2回または、月1回おこずかい帳の確認がてら訪問してもらっている。その時には身体状況やホームでの暮らし振りなど報告している。「蓮池便り」や管理者の手紙なども定期的に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者は利用者家族と話す機会は多く信頼関係は保たれている。その為、意見や要望は少ない。その中で出された意見や要望は職員会議を開き改善に向け話し合いをしている。改善できるものについては早急に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	建物が平屋となっており、職員はユニット関係無く出勤時と終了時には挨拶をしている。利用者も行き来することが多く馴染みの関係ができています。新人職員には慣れるまでベテラン職員と一緒に付き利用者のダメージは最小限にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内でベテラン職員が新人職員に実践で教えることがある。その時どきに分らない時には教えている。また年3回の法人の研修は必ず受けている。市役所や地域包括支援センターなど主催の外部の研修も参加している。	○	パート職員にもその時どきに必要な研修が受けられるよう検討してほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人グループとの交流や市役所などの研修参加で交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居依頼は病院の相談員からの依頼であったり、家族が見学に来て決めたりしている。入居してからは、とくに夜を注意深く見守っている。落ち着かない人は管理者が添い寝する場合もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に畑仕事のノウハウを教えてもらったり、昔話をしてもらったりして関わりあいながら生活の知恵を教えてもらっている。共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの言葉や表情や日々の暮らしの行動の観察をし、意向を把握している。困難な場合は家族に聞いたりして、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の希望や日々の関わりの中で汲み取った利用者の思いが介護計画に反映できるよう、ケアカンファレンスにおいて意見交換を行ないながら利用者一人ひとりの思いを反映した介護計画が作成されている。また、利用者それぞれの計画書に写真が貼ってあり、わかりやすくなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとの見直しと状態変化に伴う見直しを行なっている。見直しのときは、ケアカンファレンスや全体会議でスタッフと話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は基本的に職員が行なっている。家族を連れて一緒に病院へ行くこともある。又、利用者が入院した際に1日おきに病院へ行き、洗濯物を持ってきて洗う。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医で、適切な医療が継続して受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族が最期まで安心してサービスを利用できるようにできるだけ早期から家族や医師と話し合う機会を設け、重度化した場合や終末期のあり方についての方針を共有している。	○	ターミナルケアを行なった記録を残されることを望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	食事の食べこぼしをさりげなく処理するなど、職員が利用者一人ひとりの誇りを尊重しながら接している。また、個人情報の保護についてもよく理解して支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買物や散歩等、一人ひとりの思いに添った支援をできる限り行っている。他に体操やカラオケ大会なども日常的に行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの嗜好の把握に努め、好みや身体状況に応じて食事形態の工夫がされている。食事の準備も一緒に行い、後片付けも出来る人には手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は月・水・金の13:30からとなっているが、シャワー浴は毎日でも可能である。入浴の順番や入浴剤を使用するなどの工夫をしながら入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で利用者の得意なことや個性が発揮できるよう役割づくり、場面づくりが行なわれている。食事の準備を手伝う人、洗濯物たたみをする人、モップをかける人など、利用者それぞれのできることを手伝ってもらっている。又、おはぎを食べたいと言う人に次の日に作って食べてもらい喜ばれたこともある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や日向ぼっこは日常的に行われている。季節ごとの外出で、先日は銀杏の紅葉を見に行った。また、週1回喫茶店へ行ったり、カラオケへ出かけたりして気分転換や生活の意欲へつながるよう取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいるが、職員が一人のときや入浴ケアの時などは、閉錠する場合もある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いの下2月と6月に避難訓練を実施しているが、地域の人々の協力は現状では得られていない。	○	日常的に地域の人や消防署等との関係を深め、実際に協力を得られるような体制についてや夜間想定訓練を行なうことを検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事・水分摂取量を確認、記録されている。医師の指示がある利用者については水分摂取量のチェックが行なわれている。水分摂取はこまめに勧められている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓からは自然の光が十分に降りそそぎ明るい空間となっている。フローアや玄関に鉢植えや花を飾り、季節感を感じられるように配慮されている。壁には手作りのカレンダーや季節の壁かざりや利用者の作品の塗り絵などを展示している。	○	玄関の整理整頓をされることを望む。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはそれぞれの使い慣れたダンス、テレビ、イスなどが持ち込まれており、その人らしさを大切に居心地のよい居室づくりがされている。		